

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第54号
文責 校長 西村羊治
令和7年12月1日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

一人一人を大切にすること

右は先月28日(金)の熊日新聞に掲載されていた、全国中学生人権作文コンテスト県大会で、最優秀賞になっ作文です。字が小さくて申し訳ありませんが、掲載させていただきました。

この阿蘇中の宮崎さんは、祖母や母との会話を通して、深い学びをされています。障がいのある人に対して、「できないことを助け合うだけじゃなくて、その人ができることを見つけることが大事なんだよ。」と祖母から学びます。また、「支援っていうのは、相手を下に見ることじゃなくて、いっしょに暮らしやすい方法を考えることなんだよ。」との言葉をもらって、深く考え深い学びをしています。

このことは、学校に携わる教師にも通じるところがあると思いましたが、児童生徒のしなやかなところ、できないところを指導することは大切ですが、できたこと

とできるようになったことを、タイミングよくわかりやすく簡潔に誉めて、やる気を引き出すことが大切だと思います。学力や体力、豊かな心を身に付けさせることは教師としての大切な仕事です。でも強制して身に付けさせることより、児童生徒が学力・体力・豊かな心を身に付けたいと思えるように「関わる支援し寄り添う」ことが大切だと思います。無理矢理させるより、本人がやりたいと思えるように仕向けることでしょうか。私も校長として、児童はもちろん、保護者の方、先生方や地域の方々、行政の方々との関係を大切にして、一人一人を大切に学校運営を目指していきたいと思いました。まだまだできていないので・・・。



一人一人を大切にすること

阿蘇中1年 宮崎來那さん

私の祖母は、障がい者グループホームを運営している。私の母も、その障がい者グループホームではたらくしている。家ではよく、グループホームの出来事や障がいのある人が安心して暮らすためにはどうしたらよいか、という話をしている。私はその話を聞き、障がいのある人もない人も同じように大切にされる社会について考えるようになった。

あるとき、祖母が「できないことを助け合うだけじゃなくて、その人ができることを見つけることが大事なんだよ。」と、言っていた。そのとき、私は、「はっ」とした。私は、障がいのある人を「助けてあげなければならぬ人」と思っていたからだ。でも本当はそうじゃなくて、その人にも得意なことや好きなことがあって、それを大切にすることが必要なんだと気づいた。

母も、「支援っていうのは、相手

最優秀賞 熊本地方法務局長賞

手を下に見るんじゃないで、いっしょに暮らしやすい方法を考えることなんだよ。」と言っていた。この言葉を聞いて、私は「助ける人」と「助けられる人」という関係ではなく、「同じ立場でいっしょに考えること」が支援なんだと思った。

祖母のグループホームには、いろいろな障がいを持つ人が暮らしている。体を動かすことが苦手な人もいれば、計算や字を書くことが難しい人もいる。でもそのかわり、とても気遣いができる人や手先が器用で折り紙を上手に折れる人、歌を歌うことが好きで場を盛り上げてくれる人もいる。祖母は、「できないことを考えるより、できることを大事にした方がみんなの笑顔が増えるんだよ。」と言っていた。私は、その言葉を聞いて、とてもすてきだと思った。

母や祖母の話を聞いてみると、障がいのある人への支援というのは、

は、特別な人だけがする特別なことではないと感じる。私達の日常の中にも同じようなことがあると思う。学校で友達に困っていたら声をかけたり、苦手なことを少し手伝ったりすることはだれにでもできる。そういうちょっとした積み重ねが「みんなが安心して暮らせる社会」につながるのだと思う。

私は将来、祖母や母のような福祉の仕事をするかどうかは分からない。でも、どんな場所においても「その人を一人の人として大切にすること」をわすれずにいたい。相手の苦手などところだけに目を向けるのではなく、その人のいいところを見つけれられるようになりたい。そして、学校でも、友達をからかったり無視するのではなく、認め合える関係をつくっていききたいと思った。

人権とは「だれもが大切にされる権利」であって、障がいがある人もなく、みんなが安心して暮らせる社会だと思っている。

私はまだ中学一年生で、できることは小さいかもしれない。でも、だからこそ身近なことを大切にしたい。小さな行動は、見過ごされてしまいがちだけど、人の心を温かくする力があると思う。祖母は、十年以上前から、障がい者グループホームをしようと、二年前ついに障がい者グループホームを開所し夢を叶えた。そして、毎日入居者に寄りそい、それぞれに合った支援をスタッフと共に考えている。私は、そんな祖母を尊敬している。

私は、これからも祖母や母の話を聞きながら、人を大切にする気持ちを学んでいきたい。そして、自分ができることを一歩ずつ実行して、みんなが安心して暮らせる社会に近づけるようにしていきたい。みんなが安心して暮らせる社会は、遠い未来のことではなく、私たち一人一人の行動から始まるものだと思う。

生活できることが大切だと思う。そのために、まず私ができることをしていきたい。たとえば、友達に優しく声をかけたり、困っている人を放っておかずに助けたりすることだ。